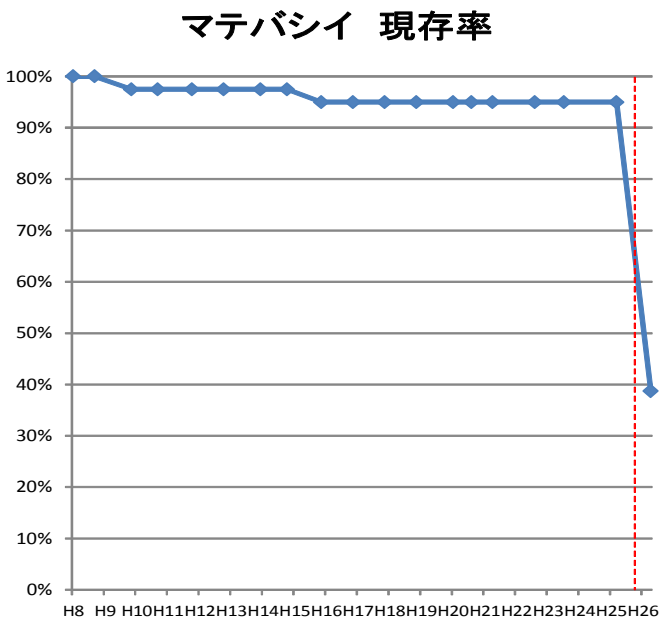
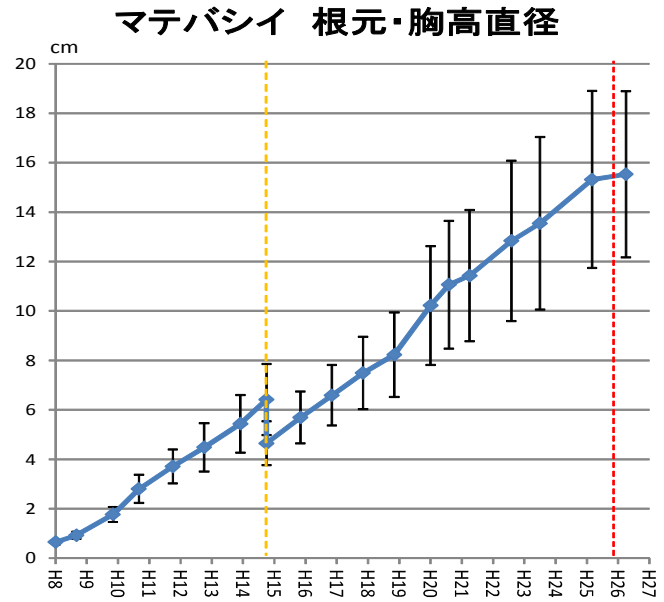
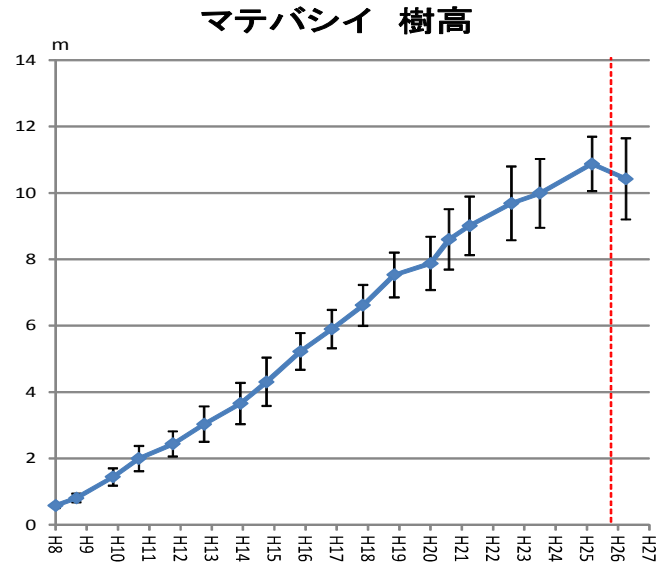
樹種名	マテバシイ
科　目	ブナ科
学　名	*Lithocarpus　edulis*
分　布	日本固有種で本州の房総半島の南端、紀伊半島、九州から南西諸島の温暖な沿岸地に自生する。
樹木特性	陽樹であり、南部の各地では鈍林なり、萌芽二次林とよばれるものになっている。伐採後の萌芽力が強いため、伐採を繰り返すうちに占有する。
用　途	公園樹、防風樹、防火樹、建築・器具材として利用。
植栽本数/面積 （植栽密度）	199 本／ 0.04ha （5,000 本／ ha）
特　徴	【樹　形】 マテバシイ（馬刀葉椎、全手葉椎）は、ブナ科の常緑高木である。 樹高は 15m になる。幹は暗褐青灰色で滑らか、若枝は無毛である。葉は互生し、楕円形で全縁。厚く平滑で、光沢がある。 花は 5 月から 6 月頃、黄褐色の雌雄花穂を結ぶ。果実は堅果で長楕円形である。 実はタンニンをあまり含まないため、アク抜きをせずに、そのまま炒って食用になる。 和名は「葉」がマテガイに似たシイノキであるという意味だが、植物分類上はマテバシイ属に属し、シイノキが属するシイ属とは同じブナ科でも別属に分類されるため、葉や幹などの外見は似ているものの系統上はシイノキの近縁の別属である。日本に自生するマテバシイ属の植物は、本種とシリブカガシの 2 種のみである。
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生したが、枯死までには至らず、現在の平均樹高は 10m 程度にまで順調に生育している。
被　害	植栽後にコウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。 （延べ駆除本数　コウモリガ：21 本、カミキリムシ類：8 本）



【現存率】
植栽後、コウモリガやカミキリムシ類による穿孔被害が発生した。
平成 16 年度以降の枯死は見られない。
林内の照度調整を図るため平成 18 年、21 年、24 年度の 3 回わたり本数調整伐を実施した。
選定した調査木では、現存率は高い結果となっていたが、平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 38.7%であった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。



【根元・胸高直径】
順調に成長している。
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 15.53 ㎝であった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。
※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。



【樹 高】
順調に成長している。
平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 10.42m であった。
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

《プチ情報》
学名の種小名の *edulis* は英語の *edible* に相当するラテン語の形容詞で「食べられる」という意味である。
粉状に粉砕してクッキーの生地に混ぜて「縄文時代のクッキー」として味わうこともできる。